

令和7年度小松市立東陵小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	〈児童にとって安全安心な学級・学校づくりを推進する〉	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施後に全ての児童と面談する期間を意図的に設定し、アンケートの内容や日頃の児童の思いを丁寧に聞き取ることができた。また、今年度から「いじめの早期発見チェックシート」の記入を実施したことにより、教員のいじめに対するアンテナを高く張ることができた。今後もアンケートと「いじめの早期発見チェックシート」を活用しいじめの見逃し0を目指すしていく。 縦割りタイムで、運営委員会で顔合わせ会、ミニ運動会と楽しい活動を企画・実施し、縦割りグループの交流を深めた。 「学校会議」では、6年生を中心に学校の課題を調査し、縦割りグループ（3～6年）で話し合い、達成目標を決定し、取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は、いじめの早期発見と組織的対応の徹底を目指し、「生徒指導通信」を発行した。職員に対し、一人で抱え込まず管理職や生徒指導主事と連携する重要性を周知できたことは大きな成果である。いじめの認知件数は1件だったが、迅速な対応により事態の深刻化を防ぐことができた。また、1学期に続き縦割り活動を実施し、異学年間の交流を促進した。運動会では縦割り班を活用した種目を取り入れ、高学年が下学年を気遣う姿が見られ、保護者アンケートでも肯定的な意見が多数寄せられた。さらに、「学校会議」では3～6年生が主体的にメディアの使い方について話し合い、保護者も巻き込みながら共通ルールを設定した。定期的な振り返りを通して、児童自身がルールを守る意識を高めることができた点も意義深い取り組みとなった。
	<ul style="list-style-type: none"> 学期に一回いじめアンケートを実施する。また、同時に「いじめの早期発見チェックシート」も行うことにより、いじめが発見されなかった場合でも教師が児童のSOSに早期に気づくことができるようにする。 たて割り活動や児童会活動を通して、目指す児童像の実現を図る。 たて割り活動を児童会活動として定着させるため、企画→提案→実行→改善のPDCAサイクルを充実させる。 		
特別支援教育	〈どの子も安心して学べるような環境をつくる〉	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導はもちろん、各担任と支援の必要な児童について話したり、実際に授業の様子を観察したりして、児童理解を深めていった。2学期以降、支援を必要とする児童について児童理解の会を通して情報を共有し、支援体制を強化していきたい。 専門相談員、市教育研究センター等との連携を図り、個に応じた支援につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は、個別に支援が必要な児童について担任と情報を共有し、個別に支援するなどの体制をとった。 気になる児童については、担任から児童の様子を聞き、専門相談員につなぎ具体的な支援について助言してもらったり、WISC検査をしたりするなどした。
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導と協力し、児童理解を深め、児童理解の会にて適切な支援について全職員で共有し、組織的な校内支援体制を強化する。 外部機関とも連携を取り支援を検討する。 		
道徳教育	〈重点目標を意識した道徳教育の推進〉	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観での道徳授業の公開については、年間の授業参観の回数関係もあり、実施が難しい学年もある。そのため、保護者への公開だけでなく教師間の公開も実施している。 重点目標の教材で行った授業内容の交流については、まだ行っていない。今後呼びかけ、交流を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業の公開については、授業参観等で各学級公開した。 重点目標の教材で行った授業内容の交流については、学校全体での交流を行うことは難しかった。来年度は、異学年での交流からはじめ、全体に広められる機会を設けることができるとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> 年に1回以上、道徳授業を公開する。 本校重点目標を各学期で確実に実施するよう、年間計画に組み込む。 重点目標の教材で行った授業内容を教師間、児童間で交流する。 		
読書教育	〈児童の読書の質を高める〉	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員のおすすめの本を紹介するポスターを作成し、掲示することで図書室利用の促進を図った。その他には、6年生が行ったビブリオバトルの投票コーナーを図書室に設置することで、図書室利用の促進を図った。 2学期以降も様々なジャンルの本を手にとってもらえるよう、図書委員が主体となってイベントを考えていきたい。 図書の平均貸し出し冊数は昨年に比べ向上している。図書室利用、貸し出し冊数のより一層の向上を図るために継続して声かけしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期は図書委員が主体となって、読み聞かせのイベントや本のジャンルビンゴを行った。また、週に1度放送で図書室へ来てもらうよう全校に呼びかけを行った。これらのイベントを開催することで、前期より図書室への来室数が増え、本を借りる児童数や貸し出し冊数も増えた。 貸し出し冊数が多い学級の児童は、物語の本を借りる機会が増える傾向にあることが分かった。今後も、図書室へ足を運ぶ習慣を身につけさせる手立てを工夫していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員が主体となり、イベントを行うことで図書室利用の促進を図ったり、様々なほんのよさを広めたりする。 週に1回朝読書の時間を設け、物語を読むことを推進する。 		
体力向上	(体幹を強化し、体を正しく使って跳躍力を高める)	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業の始めに、体幹を鍛える補助運動を全学年で取り入れて継続して取り組んだ。 5月に立ち幅跳びの記録を全学年で計測した。 縦割り活動で運動遊びを行った。6年生が8の字跳びの跳び方を1年生に教える異学年交流を行い、運動に親しむ時間を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業の始めに、体幹を鍛える補助運動を全学年で取り入れて継続して取り組み、現状を把握することや、体幹強化を行えた。 立ち幅跳びの記録を検証したところ、5月より記録が上がっていた児童は、108人中65人だった。跳躍力を高めるためのより効果的な取り組みを考える必要がある。 これからも体幹体操に加え、なわとびの取り組みを増やすことで、さらなる体力向上をめざす。
	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の授業で、年間を通じて体幹を鍛える補助運動に全学年取り組む。 5月と11月に立ち幅跳びの記録を計測して、検証する。 縦割り活動で、継続して8の字跳びに取り組む。 		
保健健康教育	〈自分の姿勢に関心を持ち、生活改善をする〉	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業の始めに、体幹を鍛える補助運動を全学年で取り入れて継続して取り組み、現状を把握することや、体幹強化を行えた。 こころとからだのチェックリストを行い、現状把握と児童へ結果のフィードバックをした。 6月に養護教諭が姿勢の保健指導を行い、「ベルスタ姿勢チェック」の取り組みや児童保健委員会の活動として、ポスター作成等ができた。2学期からも、取り組みを継続し、日常の姿勢の意識向上を図る。 11月の学校保健委員会は、学校会議と合同に児童主体でできるように計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> こころとからだのチェックリストを行い、児童がどれだけよい姿勢を意識できているか現状を把握した。またその結果をもとに、養護教諭から保健指導を行い、楽しく体幹を鍛えることができる「手押しずもう」の取り組みを紹介、実践できた。 児童保健委員会の活動として、「手押しずもう列車」の全校企画を計画している。 11月の学校保健委員会は、児童主体の学校会議で「メディアとの正しい付き合い方」について考え、6年生を主体として、「東陵っ子メディア3ヵ条」を制定、実施できた。
	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業時に良い姿勢の保持や体幹強化につながる体操を行う。 6月と11月に各学級で姿勢の保健指導を行い、日常の姿勢の意識向上を図る。 こころとからだのチェックリストや、メディアの利用状況調査を行って現状を把握する。 学校保健委員会ではメディアをテーマに、正しく付き合い方や自己管理能力の向上を目指す。 		
情報教育	〈ICTを効果的に活用し、学びの質的向上を図る。〉	<ul style="list-style-type: none"> 学習用端末を活用した授業の実践を教員間で交流し、各学年がどのような実践をしているのかを知ることができた。 毎週朝タイムにタイピング練習時間を設定した。学期末に検証することで現在の実力を知ることができた。この結果を、ローマ字入力が苦手な児童への支援に活かしていく。 2学期からは、端末の変更があるため、教員間の交流や研修を通して、効果的な使用ができるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習用端末を用いた各学年の実践共有や、新端末活用方法のミニ研修を行い、授業における端末使用頻度が増加した。 学年によってばらつきはあるものの、週1回以上端末を持ち帰り、キュビナやドリルアプリ等を活用することができた。 新しいタイピングサイトの導入や、タイピング週間の設定などにより、学期末のタイピングの検証ではどの学年もタイピング能力の向上が見られた。
	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画やカリキュラムマップを基に、ICTを効果的に活用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。 児童が学習用端末を効果的に使用することができるように、月1回の実践紹介タイムを設定する。具体的な実践紹介ができるよう工夫する。 タイピングスキル向上のため、朝タイムに練習時間を設定し、学期末にはタイピングテストを行う。 ドリルアプリやポータルを積極的に活用し、学びの質的向上を図る。 		
家庭・地域社会との連携	〈地域に開かれた学校づくりを推進する〉	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な学校だよりの発行、ホームページの更新を行い、地域へ情報発信することができた。また、コドモンを通じても積極的に情報発信に努めることができた。今後もきめ細かな情報発信に努める。 参観日においてFormsでアンケートをとり、保護者より毎回感想をいただくようにした。その感想をその後の学校運営に生かしてきた。 昨年に引き続き、4年生の総合的な学習の時間に、こども園との交流を行った。また、3年生も小松商業高校を訪問するという取組を行うことができた。今後も地域の方と触れ合う機会を設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの発行、ホームページの更新、テトルの活用等、積極的に情報発信に努めることで、保護者との情報共有を確実に果たした。 授業参観等で保護者からいただいた意見を職員全体で共有することで、保護者の思いを受けとめ、学級経営・学校運営に生かすことができた。 児童が地域に出ての学習、ゲストティーチャーを招いての学習など、人との触れ合いを通して児童の世界が広がる活動に積極的に取り組めた。
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、地域に、学校の教育活動について、学校だよりのホームページ、コドモンを活用してこまめな情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。 参観日、学校公開等においてFormsでアンケートをとり、積極的に保護者からの意見を聞く場を設定する。 総合的な学習の時間等において、積極的に地域と関わる場面を設定し、地域の方々とふれあったり地域の方々から学んだりする機会を増やす。 		

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて授業を受けている。教師と児童の関係性が良い。 学校研究では、具体的な取組の共通理解を進めて行くが良い。 アンケートや「いじめの早期発見チェックシート」を活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行っている。いじめは決して許されないことであり、いじめのない学校作りを徹底してほしい。 不登校についても、これまで通りきめ細やかな対応を心がけて欲しい。「学校会議」など、子どもの主体性を大切にしたい取組を続け、児童の自己肯定感を高めてほしい。 「なりたい自分」を意識することはとても良いことである。自分の将来像、未来像を描くような機会があると良いのではないかと。 地域とのつながりは大切である。今後も、地域と関わる場面を設定し、地域の方々とふれあったり地域の方々から学んだりする機会を増やす。
	<ul style="list-style-type: none"> 児童主体の学校会議で、保護者参観のもと「メディアとの正しい付き合い方」について考え、6年生を主体として、「東陵っ子メディア3ヵ条」を制定し、取り組めたことが良かった。 現在では、メディアも必要なので使用時間のバランスが大切である。また、ネットの情報を鵜呑みにせず、正しい情報が判断できるようになることが大切である。モラル教育も大切になる。 メディアの利用調査を行い、実態を把握することが必要ではないかと。 「知・徳・体」のバランスの取れた教育が必要だと考える。今後も、「知・徳・体」のバランスを大切にしたい。 図書委員会と図書ボランティアがコラボする活動を工夫し、図書室利用や読書教育の活性化を図れると良い。 熊の出没が今後も続くであろう。安全対策を常に見直していく必要がある。